

Title	橋本増吉博士著作目録
Sub Title	
Author	竹田, 龍兒(Takeda, Ryuji)
Publisher	三田史学会
Publication year	2009 - 1957
Jtitle	史学 Vol.29, No.4 (1957. 3) ,p.110(474)- 114(478)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19570300-0110">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19570300-0110</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

費補助金の交付を申請認可せらる。

昭和三十一年(一九五六年、七十七歳)一月二十三日、突如發病、直ちに慶應病院に入院、腦軟化症と診斷さる。五月十九日午後四時十五分遂に逝去。二十三日午後二時より自宅にて告別式を行う。戒名は淨嚴院俊學增榮居士。六月五日、夫人喜代子も相ついで病歿。九月十六日、夫妻の遺骨を多摩墓地に埋葬。  
(竹田龍兒)

### 橋本博士著作目録

單行本

著 述

新撰東洋史教科書

啓成社

大正二年十一月初版  
同五年十月改訂五版

支那の外交關係(上)

(通俗國際文庫第二卷)

外交時報社

同九年九月

東洋文明發生時代

(東洋史講座第一期前篇)

雄山閣

昭和四年十二月

佛教東傳時代

(後期)

〃

同五年六月

東洋史上より觀たる

研究

(邪馬臺國論考)

大岡山書店

同七年十一月

東洋古代史(世界歴史大系3)

平凡社

同八年十月

中央アジアの歴史の意義

(中央アジア叢書第一)

中央アジア研究会

同十五年九月

神典と日本精神

平凡社

同十六年二月

支那古代曆法史研究

(東洋文庫論叢第二十九)

東洋文庫

同十八年十月

世界民族興亡史觀

(歴史新書大類伸共著)

雄山閣

同二十二年五月

中國古代文化史研究

(史學選書)

鎌倉書房

同二十二年九月

改訂 東洋史上より見たる

東洋文庫

同三十一年三月

監 修

朝鮮史概説(物語東洋史第十一卷)

(雄山閣)

雄山閣

昭和十三年四月

滿蒙史概説(第十二卷)

(雄山閣)

雄山閣

同十四年七月

南北朝時代史概説(第五卷)

雄山閣

同十四年十月

伊藤公爵の面影

清香(東京高女校友會誌)

第十一號

明治四十二年十二月

支那古代に於ける

姓氏の意義に就きて

史學雜誌二一ノ七

同四十三年七月

邪馬臺國及び卑彌呼に就て

史學雜誌二一ノ一〇一—一二

同四十二年十月

同四十二年十月

支那の君主及び國體

三田學會雜誌五ノ一

同四十四年一月

書經の研究(一—四)

東洋學報二ノ三、三ノ三、四ノ一、四ノ三

大正元年九月—三年十月

指南車考(上下)

東洋學報八ノ二、三

同七年五月、九月

土耳其の神話

三田評論 二五二

同七年六月

バグダッドの近狀 三田評論二五三、二五四  
 鐵道の近狀 三田評論二五六、二五七  
 燕山楚水 三田評論二五八—二七三  
 左傳の製作年代 史學雜誌八一、二、七、  
 に就いて 史學一ノ一  
 「古事記及び日本書紀  
 の新研究」を讀む 史學一ノ一  
 支那古代田制考 東洋學報一五ノ一、四、  
 (上中下) 同十一年三月、  
 支那史料に現はれたる 東亞經濟研究六ノ四  
 日本最古の經濟生活 同十一年十月  
 山城式列石の疑點に就て 史學二ノ一  
 同十一年十一月  
 邪馬臺國の位置に就いて 史學二ノ三、四  
 同十二年五月、  
 十一月  
 指南車考補遺 東洋學報一四ノ三  
 同十三年十一月  
 道敎概説(書評) 史學四ノ三  
 同十四年八月  
 邪馬臺國問題に就いて 史學雜誌三六ノ  
 八、九 同十四年八月、九月  
 續指南車考補遺 東洋學報一五ノ二  
 同十四年十一月  
 子安池谷貝塚の發掘及び  
 人骨出土狀態概報 史學四ノ四  
 同十四年十二月  
 支那古代の封建制度 白鳥博士還曆記念  
 東洋史論叢 史學五ノ二、  
 四、六ノ一 同十五年五月、十月  
 支那古代の長城に就いて 昭和二三年三月  
 支那三國時代に於ける 史學五ノ四  
 我が國の形勢に就いて 大正十五年十一月

Origin of the  
 Compass. Memoirs of the Re-  
 search Dep. of the  
 Tôyô Bunko (Oriental  
 Library) No. 1  
 支那史料に現はれ  
 たる我が上代 (一—十一)  
 史學七ノ三、八ノ二、  
 三、九ノ二、三、  
 四、一〇ノ一、三  
 昭和二二年六月—  
 六年九月  
 沖繩縣那覇市外城岳具塚  
 出土の明刀に就て 史學七ノ一  
 同三年三月  
 鴻爪漫錄 三田評論三七三、三七四、  
 三七五 同三年九、十、  
 十一月  
 書經堯典の四中星  
 に就いて 東洋學報一七ノ三  
 同三年十二月  
 魏志倭人傳の生口  
 に就いて 考古學雜誌一九ノ一  
 同四年一月  
 魏志倭人傳所載の生口及び  
 持衰の意義に於いて 〃一九ノ三  
 同四年三月  
 高橋博士を弔ふ 〃一九ノ二  
 同四年十二月  
 支那文化と騎馬(上下) 歴史地理五ノ三、三  
 同五年二月、三月  
 熊襲は日本民族か 科學書報一四ノ三  
 同五年三月  
 三民主義の解剖 外交時報六〇八  
 同五年四月  
 生口問題の再考察 史學雜誌四一ノ五  
 同五年五月  
 支那南北對立の運命 外交時報六二二  
 同五年十一月  
 日本の國號に就いて 歴史教育一三  
 同六年二月、四月  
 滿蒙問題の歸趨 外交時報六三二  
 同六年三月

五行説の起源及び發達

川合教授還曆  
記念論文集

同六年十二月

我が國と大陸政策

外交時報六五〇

同七年一月

滿蒙新國家の重要性

外交時報六五六

同七年四月

日本民族の國際的使命

外交時報六六四

同七年八月

伊波屋考

考古學雜誌二二ノ九

同七年九月

先 秦(明治以後に於ける  
時代史(る歴史學の發達)

歴史教育七ノ九

同七年十一月

認識不足の問題

外交時報六七一

同七年十一月

九姓回鶻の問題について

史潮三ノ一

同八年三月

滿洲國領土の回顧

歴史公論二ノ四

同八年四月

日吉臺住居址發掘報告

史學一ノ一

同八年四月

民族的自信の強化と  
外交の刷新

外交時報六八〇

同八年四月

世界史の動向

外交時報六八七

同八年七月

詩經の作成年代に就いて

市村博士古稀記  
念東洋史論叢

同八年八月

所謂國策協定と  
外交の基調

外交時報六九四

同八年十一月

日本民族の轉進と  
大亞細亞主義

大亞細亞主義  
第一卷

同八年十二月

十十二支考  
(一一五)

東洋學報二二ノ二、  
二四ノ二

同九年一月、九月、  
十二月、同十年五月、  
十二年二月

禁斷の樹の果實

文藝春秋一二ノ一

同九年一月

公民教育の目標

公民教育三五

同九年二月

國際的新興勢力の歸趨

外交時報七〇三

同九年三月

春秋曆法考

史學雜誌四五ノ四、五

同九年四月、五月

靈 臺 考

史學一三ノ四

同九年十二月

日本精神と  
世界的文化

大亞細亞主義三一、二二

同十年一月、二月

内蒙古長城地帯(書評)

史學一四ノ三

同十年十二月

遼の建國年代に就いて

史潮六ノ一

同十一年二月

支那古代の社について  
(史學會大會發表要旨)

史學雜誌四七ノ六

同十一年六月

支那古代の社稷

東亞經濟研究二〇ノ三

同十一年八月

滿洲事變の  
世界史的意義

大亞細亞主義四一四二

同十一年十月

西周金文の曆法、  
補正録

史學一五ノ三、四

同十一年十月  
同十二年二月

舊五代史契丹傳  
に就いて

東洋史研究二ノ一

同十一年十月

倭 人 傳

歴史公論六ノ一

同十二年一月

幽風七月の曆法について

史學一六ノ二

同十三年六月

日支關係の大道

大亞細亞主義五十五三

同十二年九月

古代支那概説  
支那古代の占星學  
(東洋文庫講演)

(世界文化史大系三)  
史學雜誌四九ノ一

同十二年十月  
同十三年一月

支那民族の特性

政界往來九ノ一

同十三年一月

國民的自覺強調の效果 外交時報七九七 同十三年二月  
 支那古代の分野説 山下先生還曆記念 同十三年二月  
 に對する一考察 東洋史論文集  
 支那民族の消長 歴史教育一三ノ一 同十三年四月  
 史記封禪書に就いて 史學一六ノ四 同十三年四月  
 史記天官書に就いて 史學雜誌四九ノ七 同十三年七月  
 (史學會大會發表要旨) 政界往來九ノ八 同十三年八月  
 聖戰一周年を顧みて 大亞細主義六一六五 同十三年九月  
 對支關係の根本策 外交時報八一六 同十三年十一月  
 防共協定の強化問題 日本諸學振興委員會研究  
 歴史學の問題 報告第四篇(歴史學) 同十三年十二月  
 に就いて 武漢三鎮 歴史公論七ノ一三 同十三年十二月  
 日獨文化協定の意義 政界往來一〇ノ二 同十四年二月  
 武昌について 歴史公論八ノ二 同十四年二月  
 國際的危機の動向 外交時報八二二 同十四年三月  
 大東亞主義と 大亞細亞主義七十七三 同十四年五月  
 大亞細亞主義 牽牛初度と(史學會大會) 史學雜誌五〇ノ七 同十四年七月  
 冬至點 (發表要旨) 大陸視察雜觀 大亞細亞主義七十七九 同十四年十一月  
 後岡の發掘に就いて 三田評論五〇七 同十四年十一月  
 支那の占卜と易筮 史學一八ノ二、三 同十四年十一月

漢民族 アジア問題講座八 同十四年十二月  
 日本上代思想と世界觀 古典研究五ノ三 同十五年二月  
 日本書紀と支那思想 國學院雜誌四六ノ二 同十五年二月  
 十二次名について 池内博士還曆記念  
 殷墟文字に對する疑問と顯 東洋史論叢 同十五年三月  
 項曆(史學會大會記事) 史學雜誌 五ノ六 同十五年六月  
 記紀に現はれたる日本精神 國史回顧會  
 紀要四三 同十五年六月  
 騷衍の世界觀に就いて 史學雜誌五一ノ七 同十五年七月  
 古事記と日本書紀 史學一九ノ一 同十五年八月  
 聖戰五年を迎ふ 大亞細亞主義九一九三 同十六年一月  
 漢初の思想 (東洋文庫講演) 史學雜誌五二ノ二 同十六年二月  
 亞細亞文化の二大中心 大亞細亞主義 九一九五 同十六年三月  
 漢初の思想について 東洋大學紀要二 同十六年六月  
 神僊説について (史學會大會) 史學雜誌 五二ノ七 同十六年七月  
 日支關係の變遷 支那三二ノ九 同十六年九月  
 騷衍の世界觀 東亞論叢五 同十六年十一月  
 顯項曆考 加藤博士還曆記念 東洋史集說 同十六年十二月  
 支那古代の海洋意識 史學二〇ノ三 同十七年三月

堯典四中星 (史學會大會) 史學雜誌  
問題について (發表要旨) 五三ノ七

學會所感 (歴史學) 日本諸學二

支那民族の特徴について 東洋大學紀要三  
同十七年十二月

周初の年代 (史學會大會) 史學雜誌  
について (發表要旨) 五四ノ七

回教曆について 回教圈七ノ八、八ノ八  
同十八年八月、  
十九年十月

讀書と厚生 厚生 同十八年十月

禮記月令の 東洋學報二九ノ三、四  
曆法思想 白鳥博士記念論文集  
同十九年一月

支那戰國時代を顧みて 史學二二ノ二、三  
同十九年七月

周初の年代について 立正大學論叢一〇  
同十九年十一月

日本紀年の問題について 小天地一ノ一  
同二十一年三月

我が肇國史の再検討 // 一ノ三  
同二十一年五月

思想と文字 // 一ノ八  
同二十一年十月

耶馬臺國について 人文二ノ一  
同二十三年二月

夏殷關係の (史學會大會) 史學雜誌  
傳説について (發表要旨) 五七ノ二  
同二十三年三月

竹書紀年について 東洋學報三二ノ二  
同二十四年一月

邪馬臺國と大倭國 史學二五ノ一  
との關連について 同二十六年七月

日本建國の年代 史學二六ノ一、二  
について 三、四 同二十七年十二月  
同二十八年六月

日本國家の成立 歴史教育二ノ四  
同二十九年四月

(四七八) 一一四

幸田成友博士の思い出 社會經濟史學 同二十九年十二月  
二〇ノ三

四天王寺の想ひ出 四天王寺一八六 同三十年十月

以上の他に、平凡社發行「東洋歴史大辭典」富山房發行「國史  
辭典」「國民百科大辭典」及び中央公論社發行「支那問題辭典」  
などに寄稿されていることを申し添へたい。

上掲の年譜並びに著作目録の作製に當り、清水泰次、定金右源  
二、高橋琢二、三橋富治男、石川博道、淺村一郎、和田博徳、江  
坂輝彌、佐志傳、宮城勇の諸氏から多大の御援助を頂いたことを  
衷心より感謝致します。(竹田龍兒)